

令和8年度秋田大学大学院
医学系研究科保健学専攻（博士前期課程）
入学試験問題

小論文

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この冊子を開かないでください。
2. 問題は2枚、解答用紙は1枚あります。このほか、下書き用紙が1枚あります。印刷不鮮明等、お気づきのことがありましたら、手を挙げて監督者に知らせてください。
3. 試験開始の合図がありましたら、最初に、解答用紙に受験番号を記入してください。
4. 試験終了後、下書き用紙は持ち帰ってください。

小論文試験問題

下図 1～3 は、令和 6 年 3 月に厚生労働省より示された「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」のデータの一部である。

問 1 図 1～3 から読み取れる、がん患者の就労・医療利用における構造的変化と年齢・性別による特徴を 200 字以内で述べなさい。

問 2 図 1～3 を踏まえ、保健医療職は仕事を持ちながらかん治療をしている患者に対してどのように関与すべきか、あなたの専門職の立場から 600 字以内で述べなさい。

解答は、「別紙小論文解答用紙」に横書きで記載しなさい。ただし句読点も字数に含める。

(図省略)

図 1 性別・年齢階級別がん罹患者数

国立がん研究センターがん情報サービス「がん統計」(全国がん罹患モニタリング集計) より

(図省略)

図2 入院患者・外来患者数の推移

(図省略)

図3 仕事を持ちながらがんで通院している者

〈出典〉厚生労働省：事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン.令和6年3月版

<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/001179451.pdf> <閲覧日 2025. 7. 25>より作成

小論文試験

[出題の意図]

1. 図1～3から読み取れる、がん患者の就労・医療利用における構造的変化と年齢・性別による特徴を200字以内で述べなさい。

複数の統計資料を的確に読み取り、年齢・性別・時系列という多軸の情報から、がん医療を取り巻く構造的な変化（外来化・就労継続者の増加・ライフステージの違い）を把握できるかを問う。

[出題の意図]

2. 図1～3を踏まえ、保健医療職は仕事を持ちながらがん治療をしている患者に対してどのように関与すべきか、あなたの専門職の立場から600字以内で述べなさい。

問1で読み取った構造的変化（外来化、就労者の増加、年齢・性別ごとの傾向）を踏まえ、それに対応した専門職としての実践的かつ構造的な支援の在り方を論述できるかを問うものである。単に「支援が必要」という表層的な認識ではなく、具体的な状況に応じた支援内容と、その背景にある社会的・制度的等をふまえた実践設計力が求められる。

また、専門性に根ざした介入の知識・技術・役割認識が問われるとともに、それを多職種・地域・職場とどう連携させていくかという横断的視点も評価の対象となる。支援の仕組み化や評価、制度との接続に触れ、教育者・研究者としての構想力も見極める。